

関東地方屈指の古寺に伝え残る県内唯一の石製露盤

かずさおおてらはいじろばん
上総大寺廃寺露盤



露盤は仏塔の最上部にある装飾部分（相輪）の一番下にある四角い盤で、塔の屋根の頂部に置いて雨仕舞（防水）の役割を果たす建築部材です。この露盤は石製で、全国でも数例が知られていますが、その中でも古い段階のものです。明治19年（1886）に著わされた『大寺村誌稿本』によれば、元禄年間（1688～1704）に「塔の越」と呼ばれる場所から掘り出されたとあり、地元では「塔の沓石」「護摩壇石」などと呼ばれていたといひます。また、そこから出土した瓦の製作年代から7世紀後半までに、上総大寺廃寺の一部が完成したと考えられています。

県指定文化財：有形文化財（考古資料）

指定年月日：平成13年3月30日

所在地：木更津市大寺1029

所有者：宗教学法人 熊野神社

員数：1点

公開・非公開の別：公開
